

道内単合板工場における

表板用単板切削厚みの実態

神 和 雄

1. 前 言

かなり以前まで、単合板工場で作られる表板用単板の切削厚みは4厘5毛（1.36mm）であったが、合板用の適材が欠乏し、その入手が次第に窮屈になってくるにしたがい、表板の厚さを薄くする事によつて（当然ウラ板もそうであるが）歩止りを増し、合理化を図ろうとすることが試みられてきた。

表板用単板を薄くすることは、必然的に中板の厚さ

を増すことになる。従つてこの厚さのバラツキが大きいと表板を薄くしても、すぐれた合板ができないので技術的に多くの問題をともなうことになる。而し、これらの問題を克服するならば、第一表に示めすように薄くすればするほど表板の収量は増加する事となる。たとえば1.36mmが0.5mmにすることができると、収量の増大は実に2.72倍となつて、原材料がおよそ37%にへつても従来とかけはりない生産量を維持できる強い活力を生みだしうることになる。

第一表 薄 剥 きの 効 果

切 削 厚 さ mm	1.36	1.20	1.10	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5
収 量 増 加 率 %	100	113.33	123.63	136.0	151.11	170.0	194.28	226.67	272.0

しかし多くの工場が技術の向上をはかる努力によつてなしうるこうした手近かな合理化はどの程度に行われているだろうか？道内にある単、合板工場の表板用単板の切削厚みは、いったい何mmに作られているだろうか？。これらの現況をつかみ、合板工業の今後の発展方策を多くの人々に考えていただくために次のような調査を行った。

2. 調査の方法と切削厚みの実態

調査方法は次の事項を印刷した調査用紙を道内の単、合板工場に配布して、回答された該当数値をまとめることにした。

調 査 事 項

昭和32年6月度の樹種別、表板用単板の切削厚み別単、合板生産量

合板生産量は4mm換算をしない生産実数

単板生産量は、表板用単板のみの場合はその生産実数、仕組の場合は表板用単板のみの生産実数

回答結果は、而し、残念なことに一定の期間内に全部の工場から回答をうる事が困難であつたし、正確度の点についても少なからざる問題があるようだが「いったい北海道では表板の切削厚さはどうなつているだろうか？」ということに対しては次のように云いうる

と思う。

今回の調査と同じ調査を昭和31年8月度にも行ったが、この両調査を通じて道内生産単板の全量についての平均厚さは第二表のようである。

第二表 平 均 厚 さ

調 査 年 月	31 — 8	32 — 6
樹 種	平均厚さ mm	
か ば	0.98	1.06
せ ん	1.16	1.11
し な	1.24	1.27

回答を得た資料のみによると平均厚さは1.36mmに比しはるかに薄くなつてきているといえる。この事は1mm以下の厚さに重点が移つてきていることを意味している。そして1mm以下の生産単板が全量に対して占める比率は第三表のような数値が得られた。

資料が不備なため、これらの表から薄剥きの普及進度を判断することはできない。たとえばカバ単板の場合を例にとると、31-8は小数工場についての資料であるが32-6は、かなり多くの工場についての資料となつたし、内需、輸出工場の比率も調整することがで

第三表 1mm 以下の比率

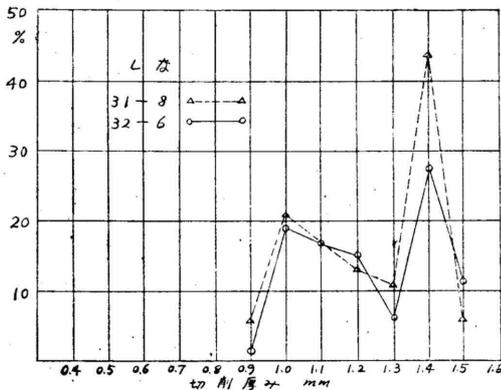
調査年月	31-8	32-6
樹種	比率%	
かば	68.37	46.78
せん	35.94	42.61
しな	26.14	20.81

きなかった。

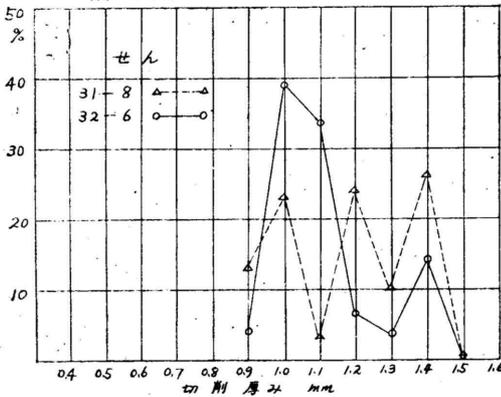
而し、これらの難点を問題の外におくならば、とにかくかなり薄剥きが一般化されている度合を不正確ながらつかみうるのではなからうか。

そして、表板用単板切削厚みの度数分布についてはつぎに示めすような図がえられた。

表板用単板切削厚みの度数分布



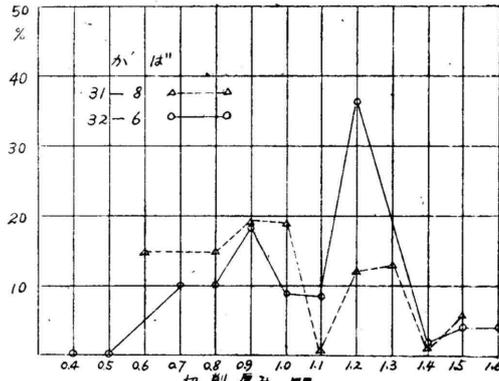
表板用単板切削厚みの度数分布



上掲の度数分布図から次のような事が観察される。

- シナについては32-6と31-8の分布の型は非常によく似ているが、32-6では1.4mmのところのピークが、かなり下降している。

表板用単板切削厚みの度数分布



備考

度数分布の基準数値については -0.05 ~ +0.04 の巾を考慮した。従って1mmは0.95 ~ 1.04mmの範囲を意味する。

- センについては、31-8では1.0mm、1.2mm 1.4mmのところと同じようなピークがみとめられたが32-6では1.0mmのところピークが顕著にあらわれてきた。
- カバについては32-6の1.2mmにおけるピークが顕著になった。僅かながら0.4~0.5mmのものもあらわれ始めた。近い将来0.9mmのピークが大きくなるように思われる。

3.むすび

筆者は、薄剥きの普及進展度を期待しながら度数分布図を作ってみたが、資料の不足のため正確な判断をなしえなかった。しかし、現況はおぼろげながら、つかみえたように思う。昭和31年8月の調査では単板工場7、合板工場16、計23ヶ工場、昭和32年6月の調査では単板工場10、合板工場11、計21ヶ工場が協力してくれた。

本年の調査(32-6)では、カバ単板361万平方尺、セン単板457万平方尺、シナ単板635万平方尺合計1,453万平方尺が対照になった。この場合、表板用単板の切削厚みが0.9mmであったとすると、カバでは20.7%センでは23.3%、シナでは39.25%の増加をきたし合計では1,882万平方尺に達するから同じ材料を使ってさらに429万平方尺の表板が生み出される筈であった。

筆者は多くの方々に次のことを提案したい。

「表板用単板の標準厚さを決めたいものだ。北海道における道材単板の表板の厚さの標準は0.9mmにしたいいものだ。」すべての工場が標準厚みをじゆんきよするとしたら利用合理化に役立つにちがいない。

林業指導課林産SP